美の観賞会だより　　第９号

令和８年５月30日

秋山卓男

ヴァン、ゴッホと三島由紀夫

それは昭和45年11月25日午後のことであった。突然表通りを何台ものパトカーがけたたましくサイレンを鳴らしてとおりすぎた。この日は四谷に本社がある会社で仕事をしていた。表通りを下ったところに自衛隊の市ケ谷駐屯地東部方面総監部があり、三島由紀夫（１９２５～１９７０）と楯の会会員４名が東部方面総監を人質に立てこもり、三島はベランダから演説をした後、腹を切り、楯の会会員が介錯するという衝撃的な事件が起きた。享年45歳であった。楯の会会員で早稲田大学の学生森田必勝が殉死した。三島由紀夫はノーベル文学賞候補に何度も推挙され、作品は内外から高く評価されていた。彼の文章はきらきらと煌めいていて他の作家はまねのできないものであった。作家としての成功と対照的な自死であった。

ヴァン、ゴッホ（１８５３～１８９０）はすぐれた作品を残しながら、生前売れた作品は１点のみで精神を病み、発作に苦しみながら最後はピストル自殺し、38歳という短い生涯を終えている。彼の作品はどれをとってもキラキラと輝いていて他の作家の追従を許さないものである。亡くなる１年前に描いた「星月夜」は絵画の中でもっとも好きな作品である。画面を上下に２つに区切り上の部分３分の２が星月夜、下の部分３分の１が地上の世界になっている。左には画面の上下ににわたり、大きな糸杉が描かれている。星月夜の星々は星の周りに幾重もの光の輪が重なっている。三日月は一段と大きく描かれ光の輪に囲まれている。星々の間には大きな星雲の渦巻きが描かれ、玄海灘の渦巻きのようだ。地上の山々は静まり、民家も静まっている。手前に教会が描かれ、尖塔が高く伸びている。星々のダイナミックな動きは、生命はそのダイナミックな動きの中から生まれ、それが地上に降りてきたようにも感じられる。地上の生命の最高位に人間が位置し、教会の尖塔と宇宙が交信しているようにも見える。

三島とゴッホは、文学と絵画で分野は違うが、三島の煌めくような文章と、ゴッホの絵画の描写の煌めきは、通底するものがあるように感ずる。どちらも美を感ずるのである。

了

ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ：星月夜